

問 題 当社の九州工場では、直接材料を工程の始点で投入し、単一の製品Xをロット生産している。標準原価計算制度を採用し、勘定記入の方法はシングル・プランによる。次の「資料」にもとづいて、下記の各問に答えなさい。なお、月初に直接材料、仕掛品、製品の在庫は存在しなかった。

〔資料〕

1. 製品Xの原価標準

直接材料費	標準単価	1,200円	標準消費量	2kg	2,400円
加工費	標準配賦率	1,500円	標準作業時間	1時間	<u>1,500円</u>
					<u>3,900円</u>

2. 当月の生産実績

完 成 品 360個（月末仕掛品は存在しなかった）

3. 当月の販売実績

販 売 品 300個（販売単価 5,000円／個）

月末製品 60個

問 1 直接材料にかかわる当月の一連の取引（1）～（3）について仕訳しなさい。なお、勘定科目は次の中から最も適当と思われるものを選ぶこと。

材 料	価 格 差 異	数 量 差 異
製 造 間 接 費	仕 掛 品	買 掛 金

- （1）直接材料900kgを1kg当たり、1,280円で掛けにて購入した。なお、当工場では実際の購入単価をもって材料勘定への受入記録を行っている。
- （2）製品X360個に対する標準直接材料費を仕掛品勘定に振り替えた。
- （3）製品X360個に対する実際直接材料消費量は750kgであったので、（2）の標準直接材料費との差額を価格差異勘定と数量差異勘定に振り替えた。

問 2 答案用紙の損益計算書を完成しなさい。なお、加工費の原価差異（当月分）として84,000円（借方差異）が計上されている。原価差異は月ごとに損益計算書に反映されており、その全額を売上原価に賦課する。

氏名 _____

(解 答 用 紙)

得点	／ 20
----	------

問 1

	借 方		貸 方	
	勘 定 科 目	金 額	勘 定 科 目	金 額
(1)				
(2)				
(3)				

問 2

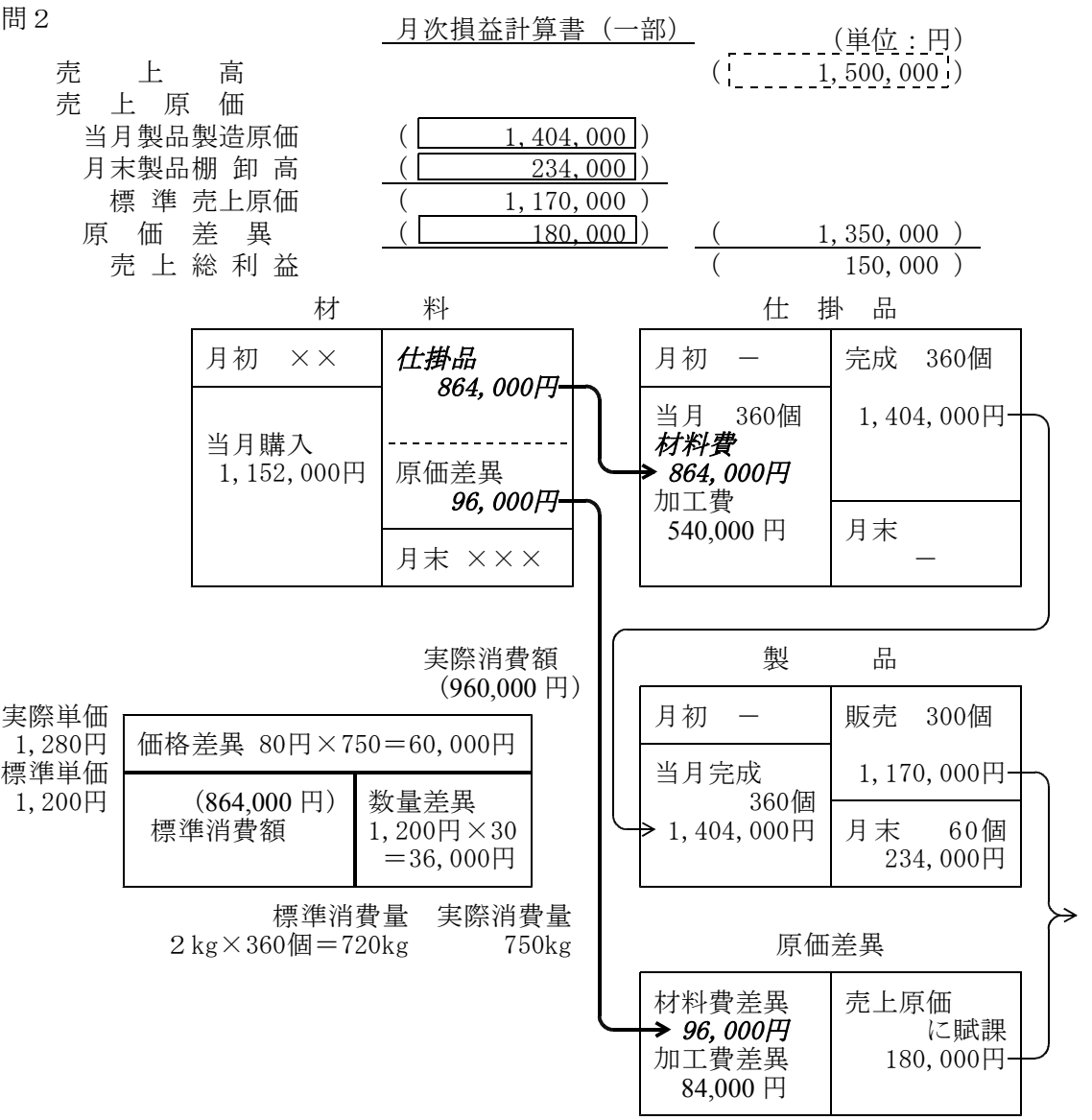
月次損益計算書 (一部) (単位：円)

売 上 高	()
売 上 原 価	
当月製品製造原価	()
月末製品棚 卸 高	()
標 準 売上原価	()
原 価 差 異	()
売 上 総 利 益	()

問1

	借 方		貸 方	
	勘 定 科 目	金 額	勘 定 科 目	金 額
(1)	材 料	1,152,000	買 掛 金	1,152,000
(2)	仕 掛 品	864,000	材 料	864,000
(3)	価 格 差 異	60,000	材 料	96,000
	数 量 差 異	36,000		

問2



問 題 (20 点)

製品Hを量産するT工場では、パーシャル・プランによる標準原価計算を採用している。下記の1～3の資料にもとづいて、(1) 原価標準(単位あたり標準原価)、(2) 直接材料費の消費量差異、(3) 直接労務費の直接作業時間差異および(4) 製造間接費の予算差異を計算しなさい。また、答案用紙の仕掛品勘定の()内に適切な数字を記入しなさい(原価差異には、直接材料費、直接労務費および製造間接費の総差異の合計額を記入すること)。

1. 当月の生産に関する資料

当 月 製 品 完 成 量 : 500単位
月 末 仕 掛 品 量 : 100単位 (1/2)
(注1) 直接材料は工程の始点で投入される。
(注2) ()内の数値は加工進捗度を示している。
(注3) 月初仕掛品はなかった。

2. 当月の実際発生額に関する資料

直 接 材 料 費 : 30,000,000円 (実際消費量30,000kg)
直 接 労 務 費 : 21,210,000円 (実際作業直接時間42,500時間)
製 造 間 接 費 : 10,525,000円

3. 当月の標準と予算に関する資料

直接材料費の標準消費価格 : 970円/kg
直接材料費の標準消費量 : 49kg/単位
直接労務費の標準消費賃率 : 510円/時間
直接労務費の標準直接作業時間 : 80時間/単位
製 造 間 接 費 月 次 予 算 : 10,578,000円

(注) 製造間接費は直接作業時間を基準として製品に標準配賦されている
(月間基準操業度＝43,000時間)。

氏名 _____

(解答用紙)

得点	/ 20
----	------

(1) 円／単位

(2) 円 ()

(3) 円 ()

(4) 円 ()

(注) (2) ～ (4) の () 内には、借方差異の場合は借方、
貸方差異の場合は貸方と記入すること。

仕 掛 品		(単位：円)
直接材料費 ()	完 成 高 ()	
直接労務費 ()	月 末 有 高 ()	
製造間接費 ()		
原 価 差 異 ()		
()		()

- (1) 108,010 円／単位 ★
- (2) 582,000 円 (借 方) ★
- (3) 765,000 円 (貸 方) ★
- (4) 53,000 円 (貸 方) ★

(注) (2) ～ (4) の () 内には、借方差異の場合は借方、
貸方差異の場合は貸方と記入すること。

仕 掛 品		(単位：円)
直接材料費 (30,000,000)	完 成 高 (54,005,000)	
直接労務費 (21,210,000)	月 末 有 高 (7,777,000)	
製造間接費 (10,525,000)		
原 価 差 異 (47,000)		
(61,782,000)		(61,782,000)

出所：107回(平成16年6月)第5問

I. 原価標準（単位あたり標準原価）の算定

直接材料費：970円/kg × 49kg/単位＝47,530円/単位

直接労務費：510円/時間×80時間/単位＝40,800円/単位

製造間接費：246円/時間×80時間/単位＝19,680円/単位

$\left(\frac{10,578,000\text{円}}{43,000\text{時間}} \right)$	$\underline{\underline{108,010\text{円/単位}}}$
---	--

Ⅱ. 差異分析

仕掛品：原料費（直接材料費）

投入	完成[500]
30,000,000	23,765,000
	月末[100]
	4,753,000
	1,482,000

実際@¥1,000

標準@¥970

実際直接材料費¥30,000,000

価格差異 ¥900,000	
標準直接材料費 ¥28,518,000	消費量差異 ¥582,000

標準 29,400kg 実際 30,000kg

仕掛品：加工費（直接労務費）

投入	完成[500]
21,210,000	20,400,000
	月末(50)
	2,040,000
1,230,000	

実際

標準@¥510

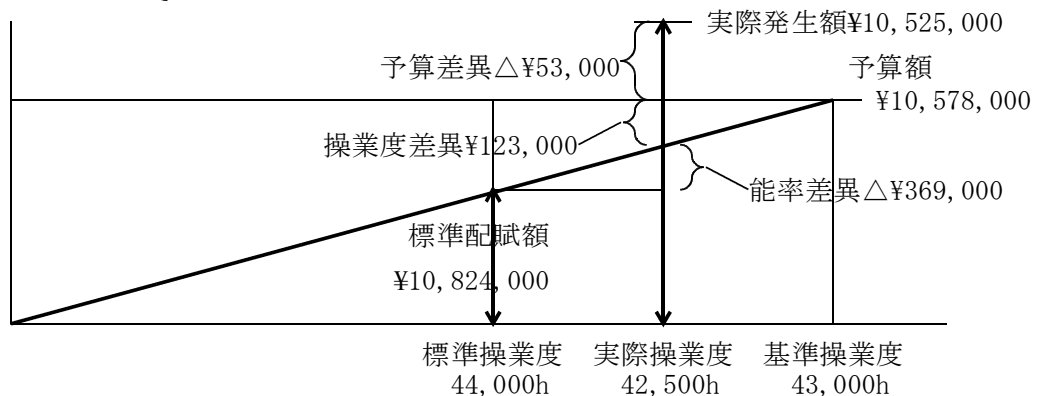
実際直接労務費¥21,210,000

価格差異 -¥465,000	
標準直接労務費 ¥22,440,000	直接作業 時間差異 -¥765,000

標準 44,000h 実際 42,500h

仕掛品：加工費（製造間接費）

投入	完成[500]
10,525,000	9,840,000
	月末(50)
	984,000
299,000	



$$\text{予算差異} : 10,525,000 - 10,578,000 = -53,000$$

$$\text{操業度差異} : 246\text{円/時間} \times (43,000 - 42,500)\text{時間} = 123,000$$

$$\text{能率差異} : 246\text{円/時間} \times (42,500 - 44,000)\text{時間} = -369,000$$

$$\underline{\underline{-299,000}}$$

問 題 (20 点)

当社はパーシャル・プランによる標準原価計算を採用している。製品Xの1個当たりの標準原価は以下のように設定されている。

直接材料費	標準単価	800円/kg	標準消費量	4 kg/個	3,200円
直接労務費	標準賃率	2,200円/時間	標準直接作業時間	0.5時間/個	1,100円
製造間接費	標準配賦率	3,000円/時間	標準直接作業時間	0.5時間/個	1,500円
					<u>5,800円</u>

製造間接費は直接作業時間を配賦基準として配賦されている。当月、製品Xを3,700個生産した。月初および月末に仕掛品は存在しなかった。なお、製造間接費には変動予算が設定されている。年間の正常直接作業時間は24,000時間であり、年間変動製造間接費予算は33,600,000円、年間固定製造間接費予算は38,400,000円である。

当月の実際製造費用が、次のとおりであったとする。

直接材料費	12,185,200円
直接労務費	4,211,200円
製造間接費	5,874,000円

材料の実際消費量は、14,860kg、実際直接作業時間は、1,880時間であった。

- 問1 当月の完成品標準原価を計算しなさい。
- 問2 当月の原価差異の総額を計算しなさい。借方差異か貸方差異かを明示すること。
- 問3 直接材料費差異を計算しなさい。借方差異か貸方差異かを明示すること。
- 問4 直接材料費差異が消費量差異と価格差異に分析されるとき、価格差異を計算しなさい。借方差異か貸方差異かを明示すること。
- 問5 直接労務費の作業時間差異を計算しなさい。借方差異か貸方差異かを明示すること。
- 問6 変動予算に基づく製造間接費予算差異を計算しなさい。借方差異か貸方差異かを明示すること。

氏名 _____

(解答用紙)

得点	／ 20
----	------

問 1

円

問 2

円

(借方差異 ・ 貸方差異)

いずれかを○で囲むこと

問 3

円

(借方差異 ・ 貸方差異)

いずれかを○で囲むこと

問 4

円

(借方差異 ・ 貸方差異)

いずれかを○で囲むこと

問 5

円

(借方差異 ・ 貸方差異)

いずれかを○で囲むこと

問 6

円

(借方差異 ・ 貸方差異)

いずれかを○で囲むこと

仕掛品：直接材料費

実際消費	完成標準
12,185,200	11,840,000
} 345,200	

実際 (@¥820)

標準 @¥800

実際直接材料費 ¥12,185,200

価格差異 ¥297,200	
標準直接材料費	消費量差異
¥11,840,000	¥48,000

標準 実際
(14,800kg) 14,860kg

仕掛品：直接労務費

実際消費	完成標準
4,211,200	4,070,000
} 141,200	

実際 (@¥2,240)

標準 @¥2,200

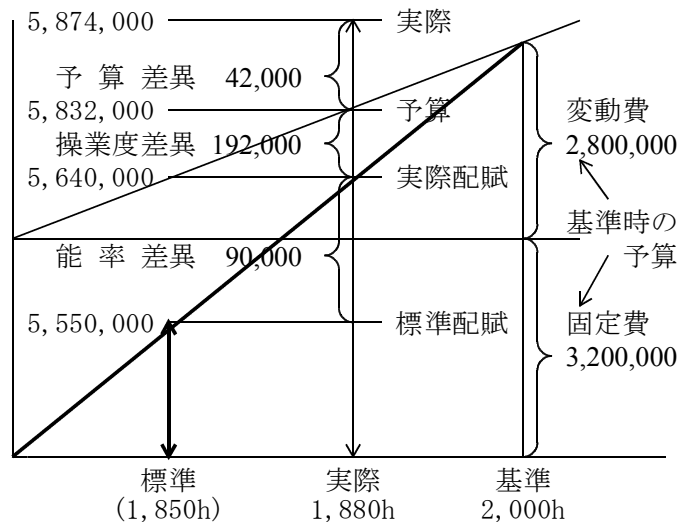
実際直接労務費 ¥4,211,200

価格差異 ¥75,200	
標準直接労務費	直接作業時間差異
¥4,070,000	¥66,000

標準 実際
(1,850h) 1,880h

仕掛品：製造間接費

実際消費	完成標準
5,874,000	5,550,000
} 324,000	



材料標準消費量 = 1 個あたり標準使用量 × 生産個数 = 4 kg/個 × 3,700 個 = 14,800 kg

材料実際単価 = 実際直接材料費 ÷ 材料実際消費量 = 12,185,200 円 ÷ 14,860 kg = 820 円/kg

標準作業時間 = 1 個あたり標準作業時間 × 生産個数 = 0.5 時間/個 × 3,700 個 = 1,850 時間

実際賃率 = 実際直接労務費 ÷ 実際直接作業時間 = 4,211,200 円 ÷ 1,880 時間 = 2,240 円/時間

基準操業度 (月間) = 年間の正常直接作業時間 ÷ 12 = 24,000 時間 ÷ 12 = 2,000 時間

変動製造間接費予算 (月間) = 年間変動製造間接費予算 ÷ 12 = 33,600,000 円 ÷ 12 = 2,800,000 円

固定製造間接費予算 (月間) = 年間固定製造間接費予算 ÷ 12 = 38,400,000 円 ÷ 12 = 3,200,000 円

標準配賦率 = (変動製造間接費予算 + 年間固定製造間接費予算) ÷ 基準操業度

= (2,800,000 円 + 3,200,000 円) ÷ 2,000 時間 = 3,000 円/時間

変動費率 = 変動製造間接費予算 ÷ 基準操業度 = 2,800,000 円 ÷ 2,000 時間 = 1,400 円/時間

製造間接費予算額 = 変動費率 × 実際直接作業時間 + 固定製造間接費予算

= 1,400 円/時間 × 1,880 時間 + 3,200,000 円 = 5,832,000